

平成29年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

## 小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

### 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問 題

次の図はわが国の農業分野における「食品ロス」についての状況を推計した資料である。食品ロスとは食べられるのに捨てられてしまう食品廃棄物である。平成25年度の食品ロスは事業系で330万トン、家庭系で302万トンと推計される。両方を合計すると約632万トンとなり、この量は国民一人が毎日約136g、すなわち、お茶碗一杯のご飯に相当する量を捨てている量に匹敵する。ただし、この推計はあくまでも市場のみのロスである。農家が規格外品やキズ物、あるいは豊作が原因で価格調整として捨てた青果物は含まれてはいない。「規格外や売れ残りで生産量の約3割を畑に捨てている」との生産者の声もある。国は食品ロスの削減として製造、卸売り、小売り、外食、さらには家庭向けの具体案を提示している。さらには法律も整備して食品循環資源の再生利用化を促進しているが、生産者にとっても事業者にとっても現実には厳しい。

この資料と問題文を参考に、食品ロスについてあなたの意見を述べなさい。また具体的な削減のアイデアがあればそれも書きなさい。ただし文章は600字から800字の範囲に収めなさい。

(食品ロスの削減に向けて (平成25年度), 農林水産省, 平成28年6月)

非公開

平成29年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

## 小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

### 出題の意図

この小論文の出題の意図は、日本が農業関連に抱える社会的な問題について一般知識を問うものであり、科学や技術者としての社会的役割や、ものの見方、あるいは志向を問うものである。また、本学科のアドミッションポリシーである「農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力」の素養を試すものである。